

様式 3

会 議 記 錄

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	第1回近江八幡市家庭教育推進協議会		
開催日時	令和5年9月1日（金）10：00～11：30		
開催場所	近江八幡市役所 南別館 水道事業所 会議室A・B		
出席者 ※会長等○ 副会長等○	<p><委員></p> <p>◎岡田委員 ○山岡委員 深尾委員 中江委員 安川委員 永峰委員 楠本委員 有森委員 杉浦委員 吉永委員 岡本委員 富岡委員</p> <p><事務局></p> <p>富江生涯学習課長 温井指導主事 勝山指導主事</p>		
次回開催予定日	令和6年 1月下旬		
問い合わせ先	所属名：近江八幡市教育委員会事務局生涯学習課 担当者名：勝山 正徳 電話番号：0748-36-5533 E-mail：045000@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録	・ <input checked="" type="checkbox"/> 要約	要約した理由
			発言内容が整理され、記録として残すのに適しているため
事務局 課長	1 開会		
事務局 会長	2 生涯学習課長あいさつ		
事務局 事務局	3 委員の委嘱		
会員	4 会長・副会長の選出		
	・会長：岡田委員、副会長：山岡委員		
事務局	5 会長挨拶		
	6 説明		
	・近江八幡市家庭教育支援基盤構築事業について		
	・近江八幡市家庭教育推進協議会について		
	・今日のめあて		
	7 情報提供と意見交流		
	テーマ①「家庭教育支援員の活動と学校・地域との連携について」		
	<武佐小学校での家庭教育支援員の活動について報告>		
委員	・昨年度に引き続き、今年の武佐小での取組を報告		

	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回家庭支援チーム会議は、主任児童委員、学童の指導員さん、小学校の養護教諭と、管理職3名で1時間ほど実施。地域での子どもの様子、学校での学習や生活の様子など、それぞれ違いを含め、課題を抱える子どもたちへの関わりについての会議を行っている。 ・不登校の子たちが見せる学童と学校での様子との違い 具体的に何をすればよいかを絞り、課題を抱える子どもの親御さんに4月からアプローチし、相談して学校へつないでいる。 ・不登校児童の地域での様子が見えてこない。学校と学童、児童の状況を知っている方の情報で、地域が子どもに対してどのようなアプローチをすべきが見えてくるように思う。 ・今年の成果…同じ学年の子をもつ親御さんに声かけをお願いできしたこと。家庭教育支援員の私がいきなり訪問するよりも、保護者さん同士話ができることがよい。 ・2学期始業式の登校指導で、なかなか学校に来られない子も含め、みんなの顔が見えてすごく嬉しい。学校の先生も子ども支援の取組をされ、ありがたく思うと同時に一步進んだかなと思う。 ・夏休みの子どもたちの地域の施設での様子（宿題をするのが好きだが、自分で読むことは苦手。読み聞かせは大好き）。学校も今後、地域での取組継続の希望している。 ・スエばあちゃん食堂の取組…今年5月、お寺（正明寺）から西木戸会館へ移転。自治会長さんに一任され、会館の責任者として現在借りている。地域の子どもたちにホンモノの体験をさせたい。 →茶道体験（本物の抹茶、講師依頼）子どもたちの笑顔に感激。 →夏休みの学習会（7/27、8/23に実施。武佐小の先生17名参加） ・以前にも小学校の先生にも子どもたちと関わるノウハウを教わり、今後、親御さんの思いを学校に伝え、学校の先生が遠慮して地域や家庭に言えないことを私が代弁して親御さんに伝えるという、架け橋の役割をしている。自分が生まれ育った地域で親御さんの様子がわかるのは、メリットかなと思う。 ・他の学区の家庭教育支援員さんは、親御さんとの繋がりをもつことに悩んでいる。私は生まれ育った地域で溶け込み、小学校とのつながりをもたせてもらっている。
会長から委員に質問	<ul style="list-style-type: none"> ・たいへん貴重なお話を聞けた。共感されたところがあると思うが、他の委員、いかがか。

委員	<ul style="list-style-type: none"> 私も地域の中や民間団体を通して、登校が困難な話を聞く。いろいろな方に関わっていただくのがすごく大事。 学校の先生と関わることが難しい親御さんは本当に多い。 違う方が間に入つてもらうことで救えるケースが、私たちの居場所でも大変多い。少しでも話ができそうな人を探す声かけもされ、それを実践されていることが聞けて本当にすごいと思った。
会長から副会長に 質問	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の立場からはどうか。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者さんからすると、学校の敷居が高いこと。 保育園や幼稚園のとき比べると、先生と話す機会が減る。 校長として、送迎の保護者さんと顔見知りになる声かけの実施。 学校が相談できる関係機関とのパイプを持つことで伝えられることがある。そういう意味でも学校は敷居が高いということを改善したい。
会長から委員に 質問	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の立場からは、どのような感想を持たれたか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・地域・家庭の3者が集まって話をする機会が少ない。 仮に集まつても情報交換にとどまってしまう。 武佐小での取組で情報交換や子どもたちへの対応に関する具体策を絞るという部分が非常に参考になった。 具体策を決め、子どもや家庭にアプローチしていく。今回では本や抹茶体験など、一連の流れが素晴らしい。
会長より委員に 質問	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前施設ではいかがか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前施設では家庭教育支援員さんはおられないが、地域学校協働推進員さんから学校への敷居が高いことを聞く。 保育所・こども園・幼稚園でも親御さんが初めて学校に、好印象をもつてもらえるように、そして小学校・中学校へとつないでいく上で、私たちの役目は大事だと思う。 不登校の話を聞き、どこでもやはり休み明けは行くのを渋る。 家庭訪問や電話など、休んだ理由を聞いたり、毎日連絡を取った

	<p>りするなど取り組んでいる。</p> <p>馬淵コミュニティセンターで子育てサロンをされているので、園と地域、双方の姿を見てきちんととらえる必要がある。</p> <p>若い先生の増加で、保護者の思いの聴き方、世間話など含め、様子の伺い方も併せた人材育成が必要。</p> <p>母の育ちを含めた家庭背景も捉えていくべき。父母からの子育ては伝承されているので、やはり就学前の保育士はそこを捉える力を身につけ、子どもたちの根っここの部分を育てているという責任をもって頑張っていきたいと日頃から思っている。</p>
会長	<ul style="list-style-type: none">・貴重な意見ありがとうございました。 <p>学校の先生は子どもたちとの関係があると思うが、親との関係に関わってその点はいかがか？</p>
委員	<ul style="list-style-type: none">・教育研究所の方ではマナビィでの教育相談室、にこまる訪問やにこまるルームを通して、子どもの不登校を中心として支援している。 <p>相談業務統括員と相談員と情報共有しながら学校に連絡している。相談員からは、保護者の子育てについての悩みが多いことを聞く。不登校や行き渋る原因についてどう聞けばいいのかという悩みを聞きつつ、「こうあるべきだ」という考えをほぐしながら、広い視野で考える声かけをしている。</p> <p>学校に訪問教育相談員を派遣し、教育相談の申請で声を掛けるなど、他の方とつながることで、いろんな方に話ができる、保護者さんが少し楽になって子どもと関わることが、一つの解決策と考えられる。</p>
会長	<ul style="list-style-type: none">・それぞれの部署によって感じ取られたことがある。 <p>武佐小での地域や学校の先生との関わりにおける子ども貴重な姿から、家庭教育支援員さんの活動を参考に、市全体への支援につながればと思う。本音を見せない子どもも、地域では見せる姿もある。</p> <p>一側面だけを見ての判断は危険であり、様々な側面での姿を理解しながら、親子関係や子を導いていく力について配慮する必要がある。家庭教育支援員さんの活動はたいへん頭の下がる思いである。</p> <p>今は外遊びや食べた後の食器の片づけなど、生活経験のなさから</p>

	<p>家庭的弱さの中で過ごす子どもが多い。生活の基本ができていない状況があり、各校園所がその受け皿になっている苦労がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 不登校の数が増えており、減る要素がない。社会における親子関係等、他にもいろんな要素がクローズアップされている。難しいといって放置しても問題は解決しない。みなさんそれぞれの立場からベストを尽くすことで子どもが守られ、人間性を育てていくことが重要視されている。家庭教育支援員さんの実践をはじめとして、みなさんの活動に生かしていただけたらと思う。
会長	<ul style="list-style-type: none"> 次に、市内の取組の報告を事務局からお願いします。
事務局	<p>(資料7ページをもとに)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内各小学校から、昨年度の事業取組の状況報告をもとに成果と課題をまとめた。 保護者の子育ての不安や悩みは多様であり、各小学校では保護者が家庭教育支援員さんや保護者同士で気軽に相談できる場の設定を行っている。 今後、家庭教育支援員さんが情報共有・組織的な支援活動のための校内ケース会議への参加、具体的な家庭支援へと繋げていきたい。 気軽に相談できる場として生涯学習課主催の子育てサロンについて開催時期やテーマなど、今後の実施に向けて検討している。 家庭教育支援員相互の情報共有が行えるように、今年度の家庭教育支援員連絡会の開催について、今後も継続していく方向である。 家庭教育支援の方法は学校・地域によって様々であり、今後どのように保護者と繋がっていくのか、各学校で検討している。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ありがとうございました。何か質問があればお願いします。 <p>(質問なし)</p>
事務局	<p>テーマ②「困り感を抱える保護者へのつながりのある支援体制について」</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習課主催による子育てサロンについて、関係各課からの情報や意見などあれば教えていただきたい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> みなさんの伝えたいことや質問してみたいことなど、どんどんご発言いただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 保育園、こども園での立場で、直接的に地域の方の手助けを借りる

	<p>ことは、個人情報のこともあり難しい。行政の支援も借りながら、子どもの家庭背景を含め、保護者と関わりたい。</p> <p>支援員さんの支援によって子どもたちは支えられ、救われている。今日の話を聞かせていただき、自分自身何ができるか、保育協議会としてというよりは、今年は何ができるかを考え始めるきっかけをいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の必要性や責務、保護者に寄り添う側面が強い。 ・自分のことは自分でできる力を身につけさせること。 ・甘い言葉や背中を摩るだけでなく、もう一步踏み込めていない弱さがある。 ・保護者が育ってきた環境や価値観と、教職員や保育士とのズレを認識して一歩踏み込んだ支援に向けて知識を得ながら支援の幅を広げていきたい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での教育の延長が、現場の教育の結果だと思う。(家庭で) 教えられていないことは、校園所ではできない。 ・食事を残す、物を片付けないなど、その場その場での声かけや教育が必要だと思う。「さっきの…」「あのときの…」と言っても子どもはわからないし、思い出せない。生活の中での一瞬一瞬の指導がつながっていく。それを置き去りにしてしまうと、どの場面でもできないことが考えられる。 ・母親の未熟さは、家庭背景や人間関係に起因するものがある。 ・保護者が抱える課題について導き、関わりながら子育てについて話していくことが大切ではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・6月に実施した園での子育て講演会（PTAとともに）コロナ禍の緩和による実施、わかりやすく話してもらった。 ・学級懇談会で、各保護者が子どものよさや子育ての悩み等を交流した。保護者同士顔を合わせる機会が減っていた中だったので好評だった。 ・市での絵本の取組、母の絵本との出会いを便りに載せ、家庭での絵本を考えもらう機会を2学期に計画している。 ・安心、安全できる環境づくりに重点を置いた取組で、涙ながらに家の話をする保護者の存在。保護者の方との関係づくりができたことは1学期の成果と捉えている。今後の丁寧な見取りへ。 ・今、こども園で絵本ボランティアをしていただいている方は、小学校でもしていただいている。同じ方に絵本を読んでもらえるこ

	<p>とは、つながりができて子どもたちも嬉しく感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後、絵本ボランティアさんを介して小学校との連携していく。
会長	<ul style="list-style-type: none"> 各校園での立ち位置を配慮して関わることで、親が校園に馴染んでいく。泣きながら母が心開いて話したことを逃さず受け入れられたことがよかった。各校園での活動は、子ども・地域・親が育つ。今後もぜひお願いしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援課の方で所管している家庭について、小さい子どもが主な対象にした事業がメインである。 市内に3つの子どもセンターと、2つの子育て支援センターがある。定期的に（子育ての）教室開催し、保護者あるいは子育てに関する悩みなどを聞かせていただき、支援している。 はちはび広場を外部委託し、アクア21で開催して育児相談を受けている。子どもの状況や発達に関することなどについては、必要に応じて発達支援課へつないでいる。 学童期である小学生に関しては、放課後児童クラブを所管している。運営していく中で小学校との連携が非常に重要になってくるので、児童の情報共有を十分に行い、円滑に運営できるようにしたい。 ・今年度、市内7つの小学校の校長・教頭、小学校区の放課後児童クラブの施設長、子育て支援課職員が入り、連携を図るために協議を開催させてもらった。年度が替わっても取組計画や進捗状況、児童の情報共有など、忌憚なく話し合いができるように、関係機関同士の関係づくりを図りたい目的で実施した。今後、軌道に乗せていきたいと思っている。 本課は子ども家庭相談室を設けている。こちらについては不登校ではなく、親からの虐待等のケースに関して「児童を守る」という部分で、児童相談所と連携して取り組んでいる。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ありがとうございました。地域活動の輪が広がっていて、心強いなと思う。支援の角度の広さということにおいて、市として大きなメリットになっている。虐待のケースについても取り上げていただき、これから増えることが予想されるが、今後も成果が出るようお願いしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 武佐小学校での取組を聞かせていただき、2学期初めの挨拶運動

に寄せてもらったことを思い出した。地域のみなさんが子どもたちのことをよく知っておられる、学校の先生と一緒にになって子どもを育てておられること、SSWの先生も子どものことをよくご存知で、いろいろな声かけをされていることなど、子どもたちのためにみなさんが一生懸命取り組まれていることを、朝の1時間程度だが感じた。

- ・今は個人情報という部分で、どこまで子どものことを園側として話してよいのか、関係機関の方もなかなか言ってもらえない、聞いても言ってもらえない等がある。そんな中で子どものことを中心に考えると、横のつながりの大ささを今日改めて感じた。個人情報は我々の立場上守秘義務の中で守られるとして、横・縦のつながりを作っていくことが、子どもを中心として我々がつながっていくことになると思い、聞かせていただいた。
- ・他の委員からも話があった若手職員が増えてきた中で、保護者との連携の難しさ、子育てが終わり年齢を重ねられた先生になると、うまく工夫して保護者と連携はできるが、若い先生は子どものことをストレートに保護者に伝えてしまうことも実際ある。
- ・幼稚園、子ども園には家庭教育支援員さんはおられないが、その役割は管理職の先生が担ってくれている。毎日の朝の出迎えで保護者に声をかけ、子どもの家庭での様子やいつもと違う感じのことなど、把握に努められている。
- ・子ども家庭相談室のお話に関連して、幼児期の子どもたちへの虐待、ネグレクトのケースがかなり増えてきている。回議している資料でもよく名前が挙がる子もいる。このようなケースに関わってくるのが、発達支援課の特別支援の子どもたちである。特別支援における子ども本人、ならびに親のしんどさがあり、育てにくさを感じて手が出てしまうケースもある。発達支援課含め、会議等で連携をとり、幼児課として市内全般の子どもの把握に努め、園へのつなぎという役割をはたしていかないと感じている。
- ・直接園や先生に言えない相談について、幼児課になら言えるというケースも結構ある。しっかり話は聞きつつ、留めるに止まらず園の方にも返すようにしている。保護者には園へは幼児課からつなぎつつ、直接お伝えになった方が思いをしっかり伝えられることも伝え、当事者が一緒に話し込んでいって分かり合えるように仲介役になっている現状もある。

会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。幼児課でも幅広い層で支援に動いてもらっていてありがたい。個人情報については、関係各課で連携していく場合には、配慮することは大事だが、子どもや家庭の問題などいろいろな角度から取り上げ、支援方法含め解決の方向へ向かわないといけないと思う。互いに言える・言えないになると、問題の中身が変わっていく気がする。そこも検討いただきたい。幼児課に直接連絡が入る親のケースについては、特質的な可能性もある。園と話せば済むことも、それを越えてしまうことで信頼関係に係る問題も往々にしてある。課から園に伝えて終わりではなく、保護者が納得・保護者を説得できることによって、問題の再発防止へつなげたい。現場の先生にとって違う問題に発展してしまうことへのショックを少なくする方法も考えてほしい。親が未熟であればあるほど、園に行っても無駄だから直接幼児課に行く、という浅はかな考えの保護者も多くなっていると思う。保護者・園双方に溝ができないようにしてもらえたなら思います。よろしくお願ひします。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・困り感を抱える保護者ことで必要と思い、関連する資料を持参した。マナビィやにこまるルーム、にこまる訪問などがあるが、教育相談室の方では、不登校児童生徒の保護者が繋がっておられることが多いと思う。不登校の状況、活動についてお伝えしたい。 ・一つ目は現状として、生徒指導担当がまとめている文部科学省の調査で、「児童生徒の問題行動不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」がある。年間 30 日以上欠席の不登校児童生徒は増加の傾向にあり、市内では小・中学校ともに国よりも高い傾向で増加している。さらに 30 日以上のうち 90 日以上欠席、年間で 10 日以下と全欠席の出席の児童生徒の割合は、国よりも少し低くなっている。 ・様々な支援機関から協力いただき、支援を受けられていることで、ひきこもってしまい、一度も登校できなかつた児童生徒は少ないと思っている。 ・教育相談室でまず電話にて話を伺い、実際に面談され、継続して面談される方を含め来られている。教育相談室 1 では 3 名の相談員が話を聞かせていただく。教育相談室 2 では、専門の臨床心理士がいて、保護者と繋がったり、相談員の先生にアドバイスをしたりしている。今年度から、教職員の相談にも乗ってもらえるようとした。

- ・訪問教育相談については、各学校に行っていただいている。そこで保護者や子どもと関係をつくり、休み時間に先生に話を聞いてもらいたい子が増えていて、情報をキャッチしてもらうなど対応してもらっている。
- ・教育支援ルームは、昨年度まで適応指導教室という名称だったが、少しずつ集団に戻れるような指導をということで、個別対応から指導員の先生や子ども同士の関わりを持てることをねらいとして、現在指導にあたっている。
- ・現在、正式申請は3名。体験は4名でそのうち1名は申請予定であり、徐々に増えてくる見込みである。
- ・訪問型教育支援「にこまる訪問」という名称にした。これは家から出られない子どもも、もしくは学校に行きにくいけれど、近くのコミュニティセンターなどの施設であれば行ける子どもに出向いての支援を、4名の先生に分担して行ってもらっている。利用者は現在5名だが、増える見込みである。
- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携もたいへん助かっている。学校の先生方だけでなく、外部機関と繋ぐために様々なお立場の先生に動いてもらっている。
- ・様々な機関があるので、そのマネジメントを進めるために相談業務統括員を配置した。学校との連携を進め、支援についてサポートしている。
- ・不登校に関して「不登校支援チーム」がある。各学校でのケース会議を見て、今後の進め方についてアドバイスしている。また生徒指導担当教員や教育相談担当教員との意見交換も行う場を持っている。
- ・小中学校の保護者に配布したリーフレットを資料に添付した。特に不登校なのにどこの支援機関にもかかっていない、悩んでいるのにどこにも繋がっていないことがなくなることを願っており、今後も進めていきたいと思っている。

会長

- ・ありがとうございました。教育研究所ができて数十年になり、学校はどのような場所であるか、子どもたちをどのような方向で支援していくか、他の部署との連携が取れてきていることが、子どもや保護者にとって貴重な場所だなと思う。学校訪問やスクールカウンセラーと意気投合するなども、支援の一つの道かなとも思う。幅広い層の子どもたちを救う方法でないと、話を聞いてくれる子だけというわけもいかない。一人でも多くの子たちを救える

	かという場所でもあるので、いろいろ検討いただき今後も広げてもらえたと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none">・他の委員のお話で、子どもセンターがある。就学前のお子さんの保護者がたくさん来られる。相談には乗ってもらえていると思うが、先程おっしゃった放課後クラブさんも今後そのような対応をしてもらえると聞いて嬉しく思う。・これは私のお願いとして聞いてもらえたと思うが、地域にある子どもセンターに行く地域の親御さんが、なかなか学校までの距離があること、敷居が高いこともあるが、センターに以前お世話になった先生方がいらっしゃるので、保護者はそこに行って悩みを聞いてもらえる、アドバイスをもらえると思っていた。昨年も話をさせてもらったが、就学前の子を持つ保護者だけでなく、小中学生の子を持つ保護者の受け皿としてもセンターを開いていただけたとありがたい。・センターに行くとお世話になった先生がいて話を聞いてくれるかなという声を地域でよく聞く。先生に話を聞いていただくだけで気持ちが楽になる、すっきりする方もたくさんいらっしゃるので、お願いしたい。・今回の会議で聞かせていただいたことをもとに、今後お聞きした話をもとに助言できればと思う。
会長	<ul style="list-style-type: none">・貴重な意見、ありがとうございました。
委員	<ul style="list-style-type: none">・昨年も話がありましたので、子どもセンター長のもとに私が伺い引き続き継続して話を聞いていただきたい旨をお願いした。
委員	<ul style="list-style-type: none">・気がついてほしい、ではなく気づいておられない方に声を掛けたり誘導したりしていただけるとありがたい。
会長	<ul style="list-style-type: none">・お互いに理解していただき、ありがとうございます。
委員	<ul style="list-style-type: none">・「蜜柑の木」がどのようなところなのか、というのは初めての方は知らないと思うので、そこからお伝えしたい。・立ち上げはボランティア団体で、私自身の経験から、病気で長く学校に行けていなかったこと、兄弟の姿や複雑さがある家庭で育った。

- ・その上で、自分の子どもが不登校になった。そんな経緯の中で不登校でも比較的明るく元気にしていました。このような体験を発信する中で、たくさんの方から相談を受けるようになった。
- ・今はSNS等を使って本人の情報にたどり着く時代になり、私自身も本当に生活ができない状況に陥った。そこで居場所の必要性から立ち上げたのが、蜜柑の木のスタートになった。私と当事者だけ繋がるのではなく、みなさん丸ごと繋がってほしいという思いで居場所を立ち上げた。
- ・やればやるほど、本当に自分たちには力がないことを痛感させられた。本気でやろうということで、会社を一般社団法人にして立ち上げさせていただいた。
- ・事業内容は、親の会と滋賀県内で子どもの居場所に関する事。それに関する団体さんと共同開催し、同じ日や時間に同じ施設でさせていただき、家庭丸ごとひっくるめて居場所を作っている。
- ・その際、孤食になることが、不登校の場合たいへん多い。子ども食堂という形でお昼ご飯を私たちがつくって子どもたちと食べている。いろいろなところに出向き食堂をするので、フリースクールさんにご飯を作ることもある。フリースクールの方たちだけでなく、大人と斜めの関係になる、いろいろな人と出会う機会を作って出向いたりするが、食事に興味がない子で、家にいると一人で食べている子や、「ご飯なんかどうでもいい」と思う子が多い。
- ・特性のこともあるが、偏食の子もたいへん多い。給食を食べる事が難しく学校に行けないという子も多くいる。子ども食堂では自由にさせて、食べたいものを食べたいだけ食べてもいいとしている。そんな中で挑戦してくる子もたくさん増えて、「ちょっと食べてみようかな」と考える子も増えている。
- ・一番は「継続すること」が大事。我々の居場所がなくなれば、どこにいけばいいのか、と迷子にならないように、継続できるよう日々運営している。
- ・その他で、学用品のリユースの会で、学校に行くかどうかわからない等、習字道具等で困られたりするので、会から回すこともしれている。不登校がある程度回復してきた、困り感が軽くなった家庭では「親の会」に来るのがしんどいこともあるが、まだまだ孤立していることが多い。集団に入っていくことが難しい。
- ・サロンという形で応援や支援を切らさず、我々と繋がっていけるようを行っている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・相談ブースを構えるのはハードルが高いので、地域のマルシェとかにブースを構え、「少しでいいから来てみれば？」と声をかけている。 ・先程話題に出た「はちはぴ広場」だが、昨年まで務めさせていただいた。相談だけではなかなか回復に至らないという現状がある。やはり繋ぎ先があることは家庭にとって回復に向かう力があるよう思う。相談を継続しながら、次の居場所にも繋ぐことで元気になっていくのを実感している。蜜柑の木でも毎回実施している。 ・教育研究所さんの方にも何度か足を運び、相談や連携をさせてもらった。また、私たち団体が孤立しないことも目的に掲げてやっている。 ・不登校についての講演もさせてもらっている。もっとも足をはこんでくれるのは「お父さん」。土日に開催し、父も母と同じように家庭で丸ごと考えてもらいたいと思っている。 ・その他の情報として、滋賀県フリースクール連絡協議会というものがあり、立ち上げに関わられていただいた。先日のフォーラムで不登校の当事者本人、保護者にアンケートをとり、その結果が公開されている。ホームページを見てもらえると、不登校に関わる人たちが日々どんなことを考えて生活しているのか、どういったことに困っているのか書いてある。参考にしてほしい。 ・東近江に通信制サポート校が一つ立ち上がり、これにも携わっている。こういった情報も今、居場所にたくさん集まっている。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・場所は八日市あたりか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・能登川に立ち上った。 なかなか会えない子どもが説明を聞きに家から出るチャンスとして、いろいろ話をさせてもらっている。こういった情報を持って話を聞くのはとても楽なので、その他の情報にも興味あれば個別にお話いただければと思う。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。 個人での立ち上げからここまで形づくられ、広く支援の手を差し伸べていただいていること、ありがたい。なかなか行政ではできないところを個人でここまでできるということ、賛同する方が多く、今後大きく発展していくように思う。不登校や引きこもりな

	<p>ど、なかなか声が上がらない、保護者が自分の子が不登校だと口に出せないことが非常に多い。こうして頑張っていただいている中から、救われる子が増えることを心から願いたい。みなさんもお聞きになって、ぜひとも手を携えて考えていただきたい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> 情報をもう一つ。この4月からフリースクール等に通う家庭への金銭的支援制度がある。助成されるという情報を持つておくと困り感を抱える家庭に、経済的に大変な家庭に、支援について知らせることで家から出る可能性もあるかなと思う。市のホームページに公開されている。
会長	<ul style="list-style-type: none"> フリースクールは何人くらい通っているのか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 私は直接フリースクールを運営していないのだが、スタッフの人数によって変わるだろうと思う。集団が苦手な子が多いので、大人数になると来なくなるケースが多くなっている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> P T A連合会から参加している。熱い想いとは逆行しているかもしれないが、「伝えよう熱い想い」と「P T A大会」の2回の活動に留まっている。会員数の減少等やP T A自体がなくなっている学校も多くなってきている。P T Aへの意識が低い中での集まりになっているように思う。 個人では園のP T A会長をさせていただいたが、ずっとコロナの影響で行事等何もできずにいた。子どもを迎えていたら園庭で遊ばずにすぐに帰ることが当たり前になっていた。今は30分程度だが遊んで帰ることでの少しの関わり合いや、学級懇談会の開催など、自由にみんなで話し合う時間を設けていただいたことなど保護者同士の繋がりを広げ、相談しやすい環境をつくる機会は増やしてもらった。今は自由にマスクなしでもOKになり、前よりもすごくなかよくなれているように感じる。それでもP T Aでの参加や関わりが低いと感じる。今後の存続が一番の課題。 「子どものため」と思えなくなっているというか、自分がしたくないという風になっていると、受け止めている。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ありがとうございます。 <p>私も14年間、小中高でP T Aに携わってきた。今会員数が徐々に減ってきてること自体が、逃れようとしているのがわかる。</p>

委員

役をする、関わることが嫌、朝早く出かけるのが嫌など、大人の嫌が子どもへの言動を縮小してしまう。親の見せる姿が子どもにとってよい教育になると思う。だからこそ P T A を活性化させてきた。

- ・一番に思うことは、P T A 活動をしなくなる学校が増える、影響を受けやすいということ。P T A 活動の大しさを訴えていく方向でないと、今後も保護者のみならず、教師もなくともよいとなってしまうと話にならない。学校のため・子どものため、親子で活動することに意味があるということを考えたら、外せないものではないかなと思う。何でも止めてしまえば、後で立ち上げることはたいへん。希望参加でいけばやります、という人も多く、嫌だからしない、という 2 つに大別される気がする。
- ・声を大にして、所属の P T A や学校関係者の気持ちを十分理解しながら、次年度も続けてほしい。やめた学校にもあれだけ頑張っている、もう一度立ち上げようかと思わせる影響力を与えてほしい。P T A 連合会がいい立ち位置で進んでいただけるとありがたい。

- ・申し上げることが個人か学区に限ったことになり、市全体のまちづくり協議会の考えではないことをお断りする。
- ・今日の会議での様子を感じるにあたり、一つは家庭教育支援員さんの熱心さ、スキルなど、学校との連携において、子どもとの関係をよくすることにつながると感じる。
- ・特に小学校の家庭教育支援員さんは熱意とスキルが高い。他校においてはどうなのか、家庭教育支援員さんのスキルアップ等に対して、行政はどのような手を打っておられるのかという課題が見える。
- ・地域として、学校に寄って行くことが難しい。個人的見解かもしれないが、学校教育の中で物知りになるということを最優先するのではなく、清く正しく美しく力強く生きていこうとする力を与えるということが、本来のベースにあるものだと思う。ラーメンや食べ残しの話から、学校教育の力点は物知りがいいことではなく、人間関係づくりや対人対応力に力点を置くように変えていくことが、物知りであることも大事だが、生涯に渡って生きていく力の教育が大事だと感じる。
- ・私の学区では、人権や多文化共生、福祉の啓発など一生懸命している。今感じるのは、教育の中で保護者に対して、子どもが強く

	<p>生きていくための子育てのメニューが、生涯学習に欠けているよう思う。継続的に強く長く生きていくための子育てに関するメニューを用意することを考えていくべきである。</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。 <p>立場は違えど、たいへん貴重な意見だと思う。味の中に何が入っているか、醤油や出汁、味の素や隠し味が入ってて…というように、中身が何であるかが求められる時代になってきた。中身の濃い、心を動かすというのが大事。祭りの子どもの姿から、普段の子どもの様子を見ることができる機会として考えてもらえばありがたい。地域の中であることで、学校の参加があつてほしいと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校の先生において、今いろいろなポジションから話が出た中で、今後どのように取り組んでいくかお話を頂ければ有難い。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに必要な力とは何かをよく話すと思うが、今日の会議でいろいろな方々が気づかれたと思うが、「子どもの力を引き出す」ことが重要。学校では学ぶ力等がクローズアップされがちだが、一歩下がって大きく見た時に、物知りというのは、教科書の内容だけ覚えればいいというわけではないと思う。 ・大人になったときに、国語や算数のテストを引っさげて生きていくわけではない。学習を通して何が残っているかというと、活動の中での課題解決や友だちと一所懸命協力して知恵を出し合いやり遂げたことや工夫したこと、しんどさを我慢してやり切ったことなど、その経験の積み重ねていくことで大人になっていく。 ・学校で過ごす時間は、人生でごく一部の時間。学校という団体を抜けてから生きていく時間の方が長い。その中で自分が親になったとき、横の繋がりをつくれず孤立してしまい、しんどくなる。それを少しでも和らげるための人との関係性、何かつながりがあることで救われた経験を幼少期にしておくことで、大人になってもそれを基に何らかの形で救いを求めていけるように思う。 ・上記の経験を、学校という小さな社会の中でみんなが体験できるような教育をしていく必要があると、常々思っている。 ・保護者についても、それぞれにバックボーンがある。子どもにおいても当然バックボーンはある。それをなしで一律の見方をしてしまうのではなく、教室に30人子どもがいれば一つの指示でや

りたいこともあるけれど、教員は子どもたち30通りのいろいろな生き方が背景にあることを踏まえて情報を発信すること。教員である以上、たくさんの子どもを指導していく立場にある者は子どもへの指導に対する心構えが必要ではないかと思う。

- ・地域での子どもの様子の違いについて、朝の登校時に保護者に送ってもらう子がいる。学校へ行きにくいわけではないが、親と一緒にいる顔と、教室へ促し担任教員の前で見せる顔とでは、やはり少し違う。子どもの心の中で普段学校の中で緊張感を持って生活している、自分をよく見せようとする（背伸びする）部分もあり、どの子もあるだろうと思う。
- ・子どもそれぞれにいろいろな顔を持っているということを、一人の人間として、きちんと把握して向き合っていくことが大事。今日様々な立場の方のお話があったが、学校の中の人間関係のみでなく、外での関係性を大切にしていかないといけないと思った。
- ・学校の教員は朝から晩まで、勤務時間外での仕事もある。子どもの登校時間に合わせて出勤し、何らかの形で子どもたちのために動いている。日々多忙な中だが、少し違う視点で子どもへの思いを馳せてみることも大事だと思う。学力というものをきちんと考えていかねばならない時代になってきた。

会長

- ・ありがとうございました。

委員

- ・子どもと関わる中で、親との関わりは切っても切れないもの。場合によっては子どもよりも親との関係を築く必要があるケースもある。皆さんのお話を聞く中で、保護者の中で常々困り感を持っている方、地域で孤立されている方がいらっしゃる。そういう方の保護者の話を学校がどれだけ聞けるかというところが大事。
- ・学校では担任や学年の教育相談担当、あるいはスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの先生など、様々な形で子どもの話を聞く体制を作っている。しかし保護者は話足りないというか、聞いてもらいたい思いを持っていると感じた。サロンのようなものは市内中学校にはないが、保護者が気軽に話ができる、親と学校、そして親同士の横の繋がりの場が必要だと思う。
- ・他の委員からも話があったが、地域の人への挨拶ができることも大事である。今朝、民生委員の方々と一緒に挨拶運動を行った。比較的生徒は元気に挨拶を自分たちからしてくれるが、中にはそうでない子もいる。目の前をすっと通しすぎていく子が気にな

る、と話していた。

- ・勉強ができることも大事だが、人へ「ありがとう」「こんにちは」がきちんと言えることも、人生の中で大きく影響するという話もしていた。今の子たちの弱い部分である。
- ・前任校で3年校長を務めた。その中で学校教育目標を変えるにあたり、「しなやかさ」という言葉を入れた。人として生きていく中で、しなやかに生きる、折れない強さみたいなものが絶対必要だと思う。中学校としてはしなやかな人をつくるということを目指していきたい。

会長

- ・ありがとうございました。小学校・中学校それぞれの側面から話が聞けてよかったです。私が感じたこととして、学校の教員も教育の方法や方針も十人十色であるということ。学級をもつことにおいて、子どもたちそれに家庭環境があること、十分な愛情のもとで満たされている子どもばかりではなく、家の中で苦しんでいる・しんどい思いをしている子もいる、という時代に入ってきた。
- ・ヤングケアラーが社会問題化され、子どもたちはなかなか家のことを話さない、真実を伝えようとしない。保護者を庇おうとする。学校の教員との関係でうまくいかないなど、子どもを取り巻く問題に対して、教員も悩んでいる。その中で担任は、いろいろな環境下にいる子どもを支援する、理解する必要があり、どのように関係を結んでいくかが、学校に求められている。
- ・他の委員からもあったように挨拶ができない、学校の勉強はできるが人間性に欠けるなど、本来家庭で教育されることが難しい中で過ごし、中学で形づいてしまう。
- ・保幼の時代から「おはよう」「ありがとう」できないときに「どうしたらしいの」など、自分から話せる聞ける子へと導いていく。読み聞かせの取組も可能性が大きいので、重要な時代だと思う。ゲームでは連携できるけど、人間関係ではちょっと…という大人であれば、人間性が弱体化していく可能性が高いという問題が出てくるように思う。
- ・学校に全ての問題を提起するわけではないが、「親育て子育て」の状態である。親が今よりしっかり子どもを育てていくような時代が進んでいかないと、学校現場の問題は縮小していかないという心配がある。
- ・本日集まっていた皆様のお立場からの活動が、社会を動かす大きな力にしていただけるよう、今後のご活躍を期待し、祈り

	<p>たい。では事務局に返します。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none">・会長、ありがとうございました。 皆様、熱心に議論いただき、ありがとうございました。 連絡事項をお伝えします。第2回家庭教育推進協議会においては、1月から2月頃を予定しております。委員の皆様のご都合を聞かせていただき、開催日を決定します。どうぞよろしくお願ひいたします。 ではこれで、第1回家庭教育推進協議会を終了いたします。 閉会にあたり、副会長にご挨拶いただきます。
委員	<p>《閉会の挨拶》</p> <ul style="list-style-type: none">・短い時間でしたが、それぞれ内容の濃いお話を聞かせていただいた。各部署の代表でおられますので、ぜひとも2月までに今回のお話を広げていただくことで、ちょっと違った2月の会議開催になるのではないかと思う。非常にたくさん貴重な意見をいただきました。ありがとうございました。・世の中生きにくいばかりを言ってしまってはいけないが、何とか頑張ろう、よくしていこうという方がいらっしゃる。そういった方の存在を今日知ることができたことが、気持ちの中で前向きになれた。今日この会議でつながれた縁を大事にして、今後も何らかの役に立てていければいいなと思う。貴重なご意見、活発な討議、ありがとうございました。

8　閉会

担当課⇒総務課